

重点目標	具体的取り組み	実現状況の達成度 判断基準	期末結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策）
① 組織的なキャリア教育の取組の推進	① 教職員のキャリア教育への意識が向上するような情報（資料）を提供する。	職員向け進路情報プリント「読んで下さい進路」の発行回数が A：年間12回以上 B：年間9回以上 C：年間6回以上 D：年間6回未満	10回で B	【分析】 前半は進路に関する基礎用語を中心にのせたが、後半は今年度から始まった就労アセスメントの記事をのせた。職員の評価は最終号アンケートで確認した。役に立った13人、少し役にたった3人の評価であった。 【次年度の扱い】 保護者向けの発信を検討する。
学校関係者委員会の評価		教職員のキャリア教育への意識が向上した。小学部から高等部までを見据えたキャリア教育に取り組んでほしい。		
学校関係者委員会の評価を踏まえた今後の改善方策		小学部から高等部までを見据えて、たとえば、技能検定に向けて小学部からどのような力をつけていくのか意識して取組を進めたい。		
② 特別支援教育の専門性と指導力を高める校内体制の充実及びセンター的機能の充実	① 各学部が授業の様子を互いに参観することで、それぞれ過去にやってきたこと、あるいは将来やることについての相互理解がすすむ。また、意見交換することで授業改善を図る。	2学部を複数回、参観した教員が A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	100%で A	【分析】 5月と11月の2回行った。行事等で見ると側も見せる側も制約のある中でのべ合計回数82回の結果であった。「他学部の活動を見ることで自分の学部を活かせることを学べる。」「自分達がやっていることを客観的に振り返る機会となる。」など双方向に効果が期待できた。 【次年度の扱い】 学校研究とタイアップした形で行うと教員の指導力向上につながると考える。
	② 校内外における外部専門家活用により、センター的機能の充実を図る。	外部専門家を活用したことに対する満足度が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	100%で A	【分析】 校外の活用5回と校内の活用6回について、対象校・対象学部アンケートを実施した。結果は、「満足」「おおむね満足」の合計が100%であった。「外部の方の専門的な助言が参考になった」「支援の改善につながった」「助言を直接聞ける時間の設定をしてほしい」などの意見があった。 【次年度の扱い】 A評価であったので来年度については次の目標を設定し、センター的機能充実を図っていく。
学校関係者委員会の評価		他学部参観により、相互理解が進むとともに、授業改善がなされた。外部専門家活用においては、校外の活用もなされ、満足のものであった。		
学校関係者委員会の評価を踏まえた今後の改善方策		他学部参観を学校研究とタイアップしながら、教員の指導力向上につなげていく。センター的機能充実については、地域のニーズに寄り添いながら充実を図っていく。		

重点目標	具体的取り組み	実現状況の達成度 判断基準	期末結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策）
③ 地域の 学校と の交流 の促進	① 28年度中の輪島分校の移転に向けて、門前東小学校、門前中学校、門前高校を始め他の学校を含め、小学部・中学部・高等部がそれぞれ様々な交流を図る。	小中高等部が他校と交流したのべ回数が A：10回以上 B：8回以上 C：6回以上 D：6回未満	13回で A	【分析】 小学部は、門前東小とプールで遊んだり給食を食べたりして交流した。また、三井小とは授業交流を2回行い、計3回行った。 中学部は、門前中学校特別支援学級生徒と木工の作業学習など5回行った。 高等部は、門前高校生徒とレタス植え・海岸清掃・互いの文化祭で販売など行った。また、輪島高校生徒と朝市で販売実習を行うなど、計5回行うことができた。 【次年度の扱い】 移転の年になるので、内容もより充実させていきたい。
学校関係者委員会の評価		門前地区の小中高校との交流が図られてきている。さらに充実させていってほしい。		
学校関係者委員会の評価を踏まえた今後の改善方策		交流の内容がさらに充実するように相互に連絡を取りながら取組を進めていく。		
④ 学校安全 教育及び 環境教育 の推進	① 家庭と連携した健康教育と感染症対策等の充実、向上を図る。	アンケート結果により、A+Bの割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	Aが62.5% Bが37.5% A+B=100%で A	【分析】 歯のみがき方、手洗い方法等のイラストを工夫して、家庭で実践できる内容を取り入れたことが、保護者のみならず児童・生徒にも見やすく読みやすく理解し易いものとなった。 【次年度の扱い】 ホームページを有効活用して、健康教育活動の情報発信をしていく。
	② 学部、学年に応じた環境意識の向上を図り、地域の里山、里海と関わり合える活動を行う。	各学部で環境教育の授業実践ののべ回数が A：10回以上 B：8回以上 C：6回以上 D：6回未満	9回で B	【分析】小学部は本郷公民館に出向き、花の植栽活動に1回参加した。中学部は総合的な学習の時間において学校周辺の道路のゴミ拾い、バス停清掃を2回実施した。高等部は門前高校と合同で道下海岸清掃、グランドゴルフ場の美化活動、カーブミラー清掃を4回実施し、環境ポスター、愛鳥ポスター展、いしかわエコデザイン賞への出展を3回行い、どれも高く評価された。 【次年度の扱い】 奥能登の地域資源を活かした活動についてより外部に発信する。
学校関係者委員会の評価		家庭と連携した健康教育と感染症対策等の充実、向上が図られた。また、学部、学年に応じた環境意識の向上が図られ、地域の里山、里海と関わり合える活動が行えた。		
学校関係者委員会の評価を踏まえた今後の改善方策		ホームページを有効活用して、健康教育活動の情報発信をしていく。奥能登の地域資源を活かした活動をさらに進めるとともに、外部に発信していく。		